

春の始めの「挨拶」年賀状

あけまして
おめでとうございます
相変わらず陳腐な年賀状
をご採用いただきありがとうございます。
どうぞございます。



私はもう50年以上前からこんな形の年賀状を作っています。
一番最初は昭和38年ですから相当年季が入っています。はじめは「おめでと」の5字から始めました。同じ文字を使うので50年以上となると当然言葉に詰まってきました。ありがとを反対から書いたり、時には「ハッピーニューイヤ」を使ったりしました。その年の話題になった事

柄や言葉（自分の話題も含め）入れるのが味噌で苦心しています。一年中気になった言葉があれば「年賀状」と書いたファイルにストックしています。中心となる言葉から連想する言葉をいくつか並べてそれを膨らませていきます。あの行の言葉が見つからず何日も苦しむこともあります。

このような形式を「折り句」と言つて昔からある日本の言葉遊びで、短歌、俳句、川柳などの初めに物の名や地名などを一字ずつ置いて詠んだものです。有名なのは、「かきつばた」の一首で紹介します。

からごろも
きつつなれにし
つましあれば
はるばるきぬる
たびをしぞおも

インターネットで調べてみると東京に「日本折り句協会」というのがあって早速入会しました。この会はまだ発展途上にあるらしく、会則もまだできていないし、定期刊行物も出してないというものでした。一応入会は受けていただきました。

記・写真・牧戸富美子

会員だより

「新型コロナ」騒動記

新型コロナが猖獗を極め、年の瀬も、お正月もない落ち着かない年末の12月21日、夜10時ごろ、毎日の習慣で血圧を測り、体温を測りました。驚いたことに熱が37度3分あるのです。「どうとう来たか」と一瞬どきりとなりました。ここでコロナが発症したらその階は閉鎖になり、その階の住人は一歩も部屋から出られないという話を聞いていたので、どうしよう。



37.3℃ コロナか？

ていと「E」が出て使えなくなつてしまいました。いろいろ考えた末、朝まで様子を見ようと決心しました。いつもより早く10時頃就寝しましたが、2時ごろ目が覚めていろいろなことを想像していると眠れなくなりました。



夜中にコロナか調べる

起きだして、パソコンで「新型コロナの初期の症状」とインターネットで見たりしましたが、あまり参考にはなりません。朝になりました。何よりも私がウロウロして人に感染させるのが一番いけないことです。考えたことは、私は絶対に人に触れてはいけない。でも朝食に行かなかつたらバレてしまふし、ヘルパーさんには言わないとしようがないと考え、「コール」でヘルパーさんに「来てください」と頼みました。そして部屋の入り口に台を置きその上に、「ここから先へ入らないでください。その辺に

触らないでください。昨夜37度3分熱がありました。症状は少し熱っぽい感じ。喉が渴きますがしんどいことはありません。元気で、私としてはこのまま、少し様子を見たいのですが、大変ご迷惑をかけてすみません。よろしくお願ひします。家族には発熱のことだけメールしました。お願い朝食はここへ持ってきてください。（食べられそうです。）体温計を貸してください。と書き、ここ2週間の外出先、体温などを書いておきました」来てくれたヘルパーさんには奥の部屋から応対しました。ヘルパーさんは何も言わずに帰っていき朝食を持ってきてくれました。そのとき昼食も部屋で出来るように頼みました。その後熱は下がり36度3分になったのでああよかった。夕食は自分で作る予定でしたからありあわせのもので済ませました。よかつたけれど不安な一日でした。

23日に訪問診療の診察があり、先生から「大丈夫です」と言われやっと安心しました。ヘルパーさんは食事を持ってきてくれても何も言わないし、その後

の症状を聞いてくれることも1回もありませんでした。それが一番不安でした。この施設では入居者も職員も誰も感染していませんので、私が第一号かときっと大騒ぎだったのではないかと想像していましたが、何の情報も入らず、私が勝手に過大判断して自分の中で大騒ぎしていったようです。思うに考え過ぎで、いろいろ先のことまで想像して、37度3分の熱なのに、人が見たらきっと「コロナ恐怖症」だと滑稽だったでしょう、恥ずかしい限りです。



コロナで無くて皆さんと体操も出来ます

記・写真・牧戸富美子